

① 「遊び心のあるまち」づくりの具現化について

昨年4月の町長選挙において町長が新たに打ち出した「遊び心のあるまち」という公約について、今年度の定例議会の一般質問の中で複数の同僚議員から「具体的にはどうということなのか」という主旨の質問がなされてきましたが、これまでの答弁は「立ち寄ってみたい・面白い、と思ってもらえる町にしたい」「賑わいのある元気な町にしたい」といった漠然としたものにとどまっており、いまだ具体的な事業・施策が見えてきません。

今年度は、新型コロナウイルスという未曾有の国家的危機への全町的な対応に追われた一年であり、多くの人を集めるようなイベントを行うことも難しく「遊び心」を実現するには困難な社会状況であったことは十分に理解しておりますが、このコンセプトは移住定住にもつながるものでもあり、人口減少や少子高齢化といった本町でも待ったなしで進行している深刻な課題の解決に寄与するものとして期待している町民もいますので、そろそろ具体的に進めていくべきだと思います。

そこで、この「遊び心のあるまち」実現にあたり、以下の事業を検討していただけるか質問いたします。

- (1) 茨城県境町のように、地域公共交通としての実用性と話題性を兼ねる自動運転バスを導入する。
- (2) 日常生活の中で町民、特に子どもたちのミッケンへの、ひいては本町への愛着を育むため、ナガヨミッケンを図案に使用した原動機付自転車のナンバープレートやマンホールの蓋を作成する。
- (3) 長与シーサイドストリートをサイクルルートとして整備・推進するとともにその沿線に SNS 映えするスポット特に若者・カップルの来訪を促すもの、例えば神奈川県藤沢市江ノ島の「竜恋の鐘」のような、カップルで南京錠を掛ける金網を新設するなどして交流人口の拡大を図る。
- (4) 東京都立川市の「プレミアム婚姻届け」のように、商工会と連携し本町で入籍した夫婦に一定期間町内での買い物の割引などの特典を用意する。
- (5) 本町を象徴する「海・山・みかん」を表す「ブルー・グリーン・オレンジ」の3色を使った独自のタータンチェックを作成しスコットランド・タータン登記所に登録申請し、正式に登録した上で町のシンボリックデザインとして広報物や書類など町の様々な場面で取り入れる。
- (6) 和歌山市の移動図書館の車がパンダの姿をしていて、市民から愛されていると聞く。本町の「ほほえみ号」も、走っているのを見るだけで楽しくなり子どもの読書推進にもなるような同様の動物などのユニークなデザインにする。
- (7) 令和8年度竣工予定の新図書館を、町民が誇りに思えて、遠方の市町からも訪れたい、建物そのものが作品として本町のランドマークとなるような、高知県梶原町立図書館のような著名な建築家による個性的なものとする。

② 契約業務等の透明性の確保と情報公開について

総務省によると、令和元年度に発覚した地方自治体および一般事務組合等の事務に従事している特別職および一般職の地方公務員による不正の件数は74団体87件のほり、近年は県内の他市町でも入札価格の漏洩や給食費の着服などが発生し、行政や公共事業への住民の不信を招いています。本町ではこのような事例はありませんが、多額の公金を扱う以上、その原資である税金を納めてくださっている町民に対し、その用途や根拠、またその他事業や公告など公開できる情報は可能な限り公開・明示し、透明性を確保すべきと考え、以下質問いたします。

- (1) 多くの地方自治体が、規定の限度額を超えた随意契約について金額・相手先・随契の理由等を公表しているが、本町は行っていない。透明性・信頼性の確保のために公表すべきと思うが、どう考えるか。
- (2) 社会福祉協議会等の民間団体の事業に町が補助金を出した場合など、その用途（物品の購入など）が、行政が行う契約事務のように公平公正であるか事後にも精査・検証すべきと思うが、行われているか。
- (3) バス通り沿いの屋外告示板2台が、石垣で一段高くなっている植え込みにあり、掲示板までの高さや距離と掲示板自体の奥行きや深さのために掲示されている書面の文字は判読が極めて困難である。読ませるつもりがないと言われても仕方がない状態で、町の情報公開の姿勢が問われる。改善すべきではないか。